

## 学力向上の方策について

北九州市 P T A 協議会

中川 博子

今回、「学力向上の方策について」という議題を頂きました。学校に通っている子どもがいる母親のひとりにすぎない私にとって、方策といった大きなことは言えませんが、保護者の立場から少しお話をさせていただきます。

「学力」についてですが、まずは家庭において出来ること・やれることを考えました。

家庭は、子どもを育てていくことすべての出発点であり、生活習慣そして学力の基礎・基本を育てていく大切なところだと思っています。ですが、現在の家庭においては、核家族化や少子高齢化など、社会環境が大きく変化するにつれ、昔に比べて子育てが難しくなっているようです。そのため、子育てやしつけにおいて自信のない親が増え、家庭で子どもを育てる力「家庭の教育力」というものが低下しているのではないかと感じられます。

家庭の教育力の向上の方策の一つとして、各 P T A において家庭教育学級を開催し、保護者の方々と子育てのこと・学校のこと・家庭のことなどいろいろな話し合いをしています。講師の方を呼んだ勉強会もしています。ですが、実際にはなかなか保護者の方々の集まりが少ないのも現実です。私も親として完璧ではないので偉そうなことはとても言えませんが、家庭での基本的な生活習慣の育成がきちんに行われていないと、子どもたちの学力向上にもつながっていかないように思います。

また、北九州市では、子育て・親育ちのための「北九州市子どもを育てる 10 か条」の普及・啓発も行っており、子育ての基礎基本の大切な部分ではないかと思っています。

昨年度おこなわれていた学力向上検証改善委員会では、本市の学力向上のための 6 つの課題と 5 つの提言を示した報告書がまとめられています。それを元に今年度、すでにいろいろな取り組みが行われているようです。

その中で、すべての教科における言語活動の重要性といった点で、「言葉の力」を高めるために本市独自の「日本語大好き音読・暗唱ブック『ひまわり』」を作成されたと聞き、現物も見させていただきましたが、とてもいいものが出来たと感じました。

子どもたちは、くり返しの言葉など響きの良い音には興味を示します。私ごとですが、以前に勤めておりました保育園でも詩の朗読暗唱を行っておりました。子どもたちに教える物としてではなく環境の一つとして、日々繰り返すことで脳に刺激を与え、その刺激によってどんどん脳細胞が活動をはじめ、芽を出し・根を張り・絡み合い、さらにつながって、確かな能力が定着し、脳が育っていくことを行っておりました。子どもたちには「ちょっとむずかしいのでは・・・。」と思われるものでも、そのときに意味が理解できなくても、繰り返しの刺激は、後にその言葉と出合った時に「こういうことだったんだ。」と、脳の配線がまたつながっていくのです。この教材として使われ始めた「ひまわり」も同じことではないかと、とても興味を持ちました。今後の成果が期待されるころだと思っています。

あまり学力向上の方策としてのお話はできなかったのですが、学力をつける上でも家庭と学校は、それぞれの役割を果たしながらも連携をとっていくことが必要だと思います。保護者である親も、もっともっと学校に足を運んで、子どもたちのことを知って欲しいと思います。また、P T A 協議会でも母親たちで組織された母親委員会を開催しています。子どもたちの今の現状等、話し出すときりがないくらい課題がたくさん出てきます。その中でもいろいろな資料をもとに、親も学習していきたいと思っています。